

地域情報化アドバイザー制度活用報告書(2日目)

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請団体情報

1-1. 申請団体

団体名	野木町	代表者名	真瀬 宏子
担当者部署	総合政策部	連絡先電話番号	0280-57-4260
担当者役職	係長	担当者氏名	阿部 智彦
住所	329-0195 栃木県野木町大字丸林571番地		

2. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	市川 博之
評価	大変よい
上記評価の理由(どのようなところがよかったか等詳細に)	DXの概論から始まり、難しい単語も出ましたが、職員が共感できる事例を挙げての説明であったため分かりやすかったです。参加者自身の身の回りの業務課題の抽出のグループワークでは先生からユーモアを交えた話があったため、会場も和やかになり、意見の出しやすい環境を作ってくださいました。
アドバイザーへの要望事項	また機会がありましたら市川先生にご指導いただけたらと思っております。

3. 地域情報化アドバイザー派遣実績

	派遣日	開始時刻	終了時刻	内休憩時間(分)	活動時間(分)
3-1. 活動	2022年2月2日	9時00分	16時30分	80	370
3-2. 派遣場所	会場名	野木町役場		最寄駅	オンライン
	所在地	栃木県下都賀郡野木町大字丸林571		最寄駅からの交通手段	※お送りください。(距離的には徒歩10分程度です)
	派遣形態	講演(オンライン)			

4. 報告書に関してのAPPLICホームページへの掲載許可

掲載許可	<input checked="" type="radio"/> 掲載可
------	--------------------------------------

5. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

5-1. 支援を受けた対象者	属性(職員、一般、企業等)について【自由記述】 職員	人数 54人
5-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果	<p>事業の課題・問題点(具体的にご記入下さい) DX=デジタル関係は難しい、ICTツール導入事業だから自分には関係ないと誤認している職員が多いことが問題でした。そして、正しくDXを理解することが課題でした。</p> <p>支援により目指す成果(具体的にご記入下さい) 当町に合わせた正しいDXの認識共有と機運の醸成を管理職員に浸透させ、その先で、職員一人ひとりが主体性をもってサービスデザインを意識したDXに取り組めるようになること。</p> <p>アドバイザーに支援を受けた内容(具体的にご記入下さい) 受講者は管理職員が中心でしたが、その層で行った業務課題の抽出が有意義でした。抽出した課題は大きな課題から職員の意識を変えるだけで解決できそうな小さな課題もありました。小さな課題を解決することもDXですし、大規模にICTツールを導入しなくても、職員だけで解決できる課題がたくさんあるという気づきを得られました。</p> <p>支援を受け改善又は解決された内容(具体的にご記入下さい) 支援により目指す成果が得られたか否かを判断するにはもう少し時間が必要ですが、研修後に好評の声もあったことから、現時点で一定の成果が得られたものと期待しております。</p> <p>具体的な成果物 最も当てはまるものをリストより選択下さい。 ⑥途中段階であり、具体的な成果物はできていない</p> <p>改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容(具体的にご記入下さい) なし</p>	

アンケートの内容と分析結果	講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。（EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。） アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。 グループごとにヒアリングを行いました。全てのグループから高評価をいただきました。	
5-3. 今後の計画 事業の最終的な目指す姿	最も当てはまるものリストより選択下さい	③现阶段では課題・問題が残っているため未定 全職員にサービスデザイン思考を定着させること

6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

